

湘南藤沢学会 研究助成金（研究成果発表）成果報告書

政策・メディア研究科 後期博士課程3年 横尾俊成

1. 活動名称

The effect of Social Movement Using SNS in Policy Innovation of Local Government -Based on the Case of the Policy Making Process on Shibuya City's "Same-Sex Partnership Ordinance"

※ ISA 2018 世界社会学会議トロント大会での学会発表

2. 活動日程

2018年7月19日～2018年7月21日

場所：Metro Toronto Convention Center, Toronto, Canada

3. 活動目的

私の研究の一端を世界中の社会学者にシェアすることで、有意義なフィードバックを得、さらなる探求に役立てたいと考えている。また、「SNSを使った社会運動が、日本の自治体における政策イノベーションにいかに関与しているのか」に関するこれまでの私の研究の成果を発表し、さらに聴講者とのネットワーキングの中でさらなる議論を重ねることは、近年の社会運動研究、また日本研究をしている聴講者にとっても役に立つと自負している。

4. 活動成果

発表では、渋谷区の「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」を事例に、特に SNS を用いた社会運動に注目して、地方自治体の政策決定過程における外部からの効果的な関与のあり方について明らかにしようとした。この制定に影響を与えた LGBT による運動は、「60 年安保」や「全共闘運動」といった組織労働者と学生が多くを占める運動とは異なり、インターネット・SNS を駆使する個人によるものである点など、現代における運動の特徴を有していた。SNS を活用した社会運動には、動員だけでなく、ある言葉が拡散され、それに賛同する者の存在が可視化されるプロセスにおいて、「フレーミング」によって人々に認知的枠組みを与える効果、そして政治の場における対立を未然に防ぐ効果があるとの認識を提示した。

当日は、「日本では何歳くらいの人たちが SNS を使っているのか?」「社会運動だけでうまくいったとは思えない。他にどんな理由があるのか?」「日本でほかに SNS を使った社会運動が実践された例はあるのか?」など、各国の社会学者から様々な質問があり、日本の近年の社会運動に対する、また特に LGBT 社会運動に対する関心の高さを感じた。他にも、参加者との議論による、今後の研究への有益な示唆を得た。また、学会の期間中に出席したネットワーキングのためのミーティングやパーティ等により各国の多くの社会学者とつながりをつくることができた。



(学会の様子)

5. 今後の展望

本学会に参加し、世界中の研究者と当該分野の新たな知見について議論できたことは、非常に有意義であった。今回の発表に際し追加で調べる必要が出て来た案件については、さらに調査を重ね、博士論文に活かしていきたい。

6. 謝辞

本研究のために熱心に指導してくださっている主査・副査の先生方、それに資金面での援助をいただいた慶應義塾大学湘南藤沢学会様に御礼申し上げます。